

# みらい賞

大阪府／56歳／女性／主婦  
まつだ なおこ

松田 奈保子様

## ✉手紙の相手：亡き父

お父さんのいないお正月がまたやってきます。それももう十九回目。慣れたかな。私達三姉妹とその家族、そしてお母さんの総勢十五人。自慢の和室に集まります。その中にはなんと、ひ孫も入っているですよ。小さな手で見様見真似で仏壇に手を合わせているかわいい姿、見ていますか。今年も全員元気です。建築士のお父さんの夢が詰まったこの家今はお母さんが一人で守っています。建築士といっても、ビルや橋を造る会社員。だから我が家はビルのような鉄筋コンクリート造の一軒家。「使いづらい。主婦の私の意見も聞いて欲しかった」お母さんに小言を言われてよくばつが悪そうに顔していたね。だけど、阪神大震災の時、近所で唯一家具が倒れなかったことを誇らし気に話していたね。あの時家は見栄えより安心の方が大事と痛感しました。ああそうか、台風の時も寒い日も疲れた日も、嫌なことがあった日も、家に入ればほっとしていたのは、この家を守られていると感じていたからだっただね。定年退職

して私たちが独立し、お母さんとゆつくりした生活が始まるという時の火事。あれが我が家最大の危機だったね。誰も亡くならず、ご近所に延焼しなかったのは不幸中の幸いだと家族皆で励ましあったね。またしても、ビル並みの厚い壁が私達を守った。けれど、肩を落としたお父さんの姿に心の中で泣きました。二人暮らしに便利なマンションへ引っ越す案も出ていたね。お母さんはかなり前向きに考えていたみたいだったよ。だけど数か月後、ちよっぴりお母さんの好みを取り入れられたけれど以前とほとんど変わらない我が家が出現した時、苦笑いしながらもやっぱり嬉しかった。その家に住んで十年、突然逝っちゃったね。自分の建てた家から娘たちを立派に送り出すことが自分の最大の仕事だと言っていたね。なかなか機会がなくて、こんなに時間が経ってしまったけれど伝えておきたいです

お父さん、家もあなたも、私の誇りです。

## ✉手紙への想い ✉

本人に伝わらなくても、私の気持ちを何らかの形で残したいという想いから書きました。